Gastro-Health Now

認定ＮＰＯ法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
Certified Non Profitable Organization
Japan Research Foundation of Prediction,
Diagnosis and Therapy for Gastric Cancer (JRF PDT GC)

目　次

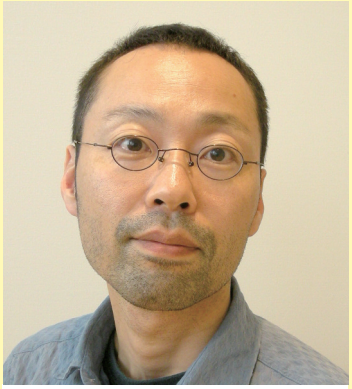
◆ 統計から見た がんのリスク層別の可能性 ……1
◆ あとがき・お知らせ……4

印刷　城南印刷工芸(株) 03-3752-3391

発行所　認定NPO法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
〒108-0072
東京都港区白金１丁目17番２号
白金タワーテラス棟 609号室
電 話　03-3448-1077
FAX　03-3448-1078
E-mail : info@gastro-health-now.org
http://www.gastro-health-now.org

2019. 9. 1
第60号

統計から見た がんのリスク層別の可能性



国立がん研究センター　がん対策情報センター
がん統計・総合解析研究部
片野田　耕　太

2人に1人ががんになる

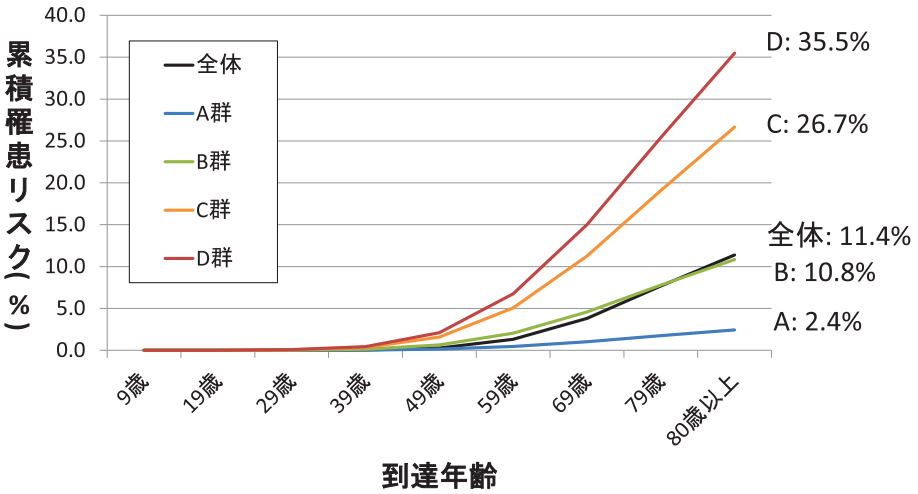
国立がん研究センターでは、毎年「生涯累積がん罹患リスク」を算出して公開している。「累積リスク」は、ある年齢までにある病気に罹患する（その病気と診断される）確率と定義され、「生涯累積罹患リスク」の場合は、一生のうちにある病気に罹患する確率を表す。「がん情報サービス」で掲載している累積罹患リスクは、年齢階級別の罹患率と死亡率を基に、生命表の手法を用いて算出されている。この手法では、0歳の人100人からなる集団を想定し、その集団を加齢させて、発生したがん罹患者と死亡者を減らしていき、最終的に0人になった時点で、それまでのがん罹患者の数を合計する。それが生涯累積罹患リスク（100人中何人が、一生のうちにがんに罹患するか）に相当する。2014年のデータでは、がん全体の生涯累積罹患リスクは男性62%、女性47%であり、男女とも2人に1人が一生のうちにがんと診断されると解釈される。胃がんの場合は男性11%、女性5%で、それぞれ9人に1人、19人に1人である。

リスク因子別の生涯累積リスク

現在公表されている生涯累積リスクは、男性なら日本人男性全体の値であり、リスク因子による違いを考慮していない。しかし、ヘリコバクターピロリ菌（ピロリ菌）と胃がんのように、大きなリスク因子の有無によって当然生涯リスクは異なる。そこで、最近はリスク因子別にがんの生涯累積リスクを算出する取り組みが始まっている。胃がんについては、ピロリ菌抗体検査（*Hp*）とペプシノゲン値検査（PG）の組み合わせを用いたABCD群別に、生涯累積リスクを算出した結果が報告されている[1)]。

図1および図2に、それぞれ男性および女性のABCD群別の胃がんの生涯累積罹患リスクを示す。A群、B群、C群、およびD群の生涯累積胃がん罹患リスクは、男性でそれぞれ2.4%、10.8%、26.7%、および35.5%、女性でそれぞれ1.2%、5.5%、13.5%、およ

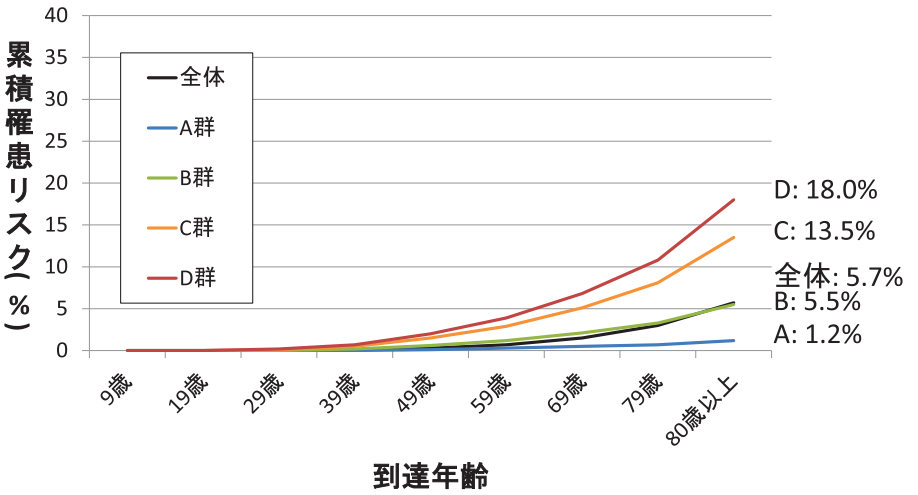
図１　胃がん累積罹患リスク(男性)



A:ピロリ菌(-)　萎縮性胃炎(-),　B:ピロリ菌(+)　萎縮性胃炎(-)
C:ピロリ菌(+)　萎縮性胃炎(+),　D:ピロリ菌(-)　萎縮性胃炎(+)

Taniyama Y, JJCO 2017; 47: 1097-1102

図２　胃がん累積罹患リスク(女性)



A:ピロリ菌(-)　萎縮性胃炎(-),　B:ピロリ菌(+)　萎縮性胃炎(-)
C:ピロリ菌(+)　萎縮性胃炎(+),　D:ピロリ菌(-)　萎縮性胃炎(+)

Taniyama Y, JJCO 2017; 47: 1097-1102

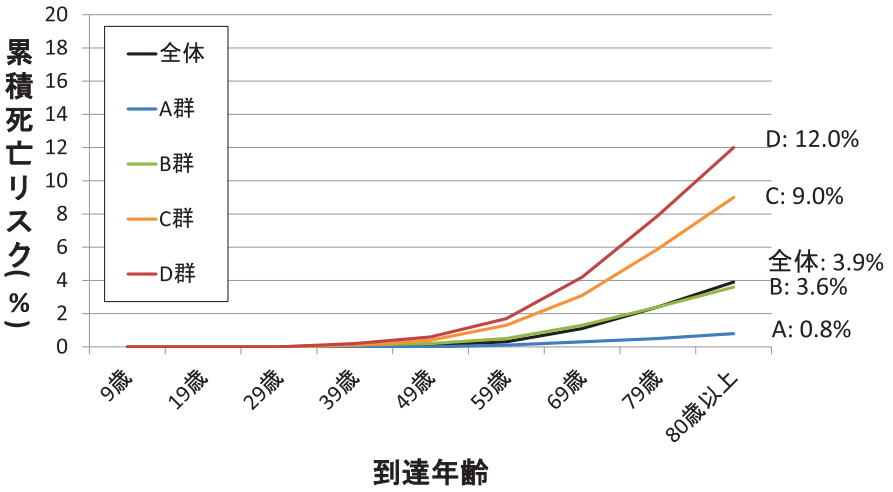
び18.0%である。男女とも、全群を合わせたリスクはB群の値に近い。リスクが最大のD群では、男性で3人に1人、女性で6人に1人が一生のうちに胃がんと診断される計算となる。特定の部位のがんのリスクがこれほど大きくなることは、ピロリ菌による胃がんリスクの大きさを物語っている。

図3および図4は死亡率で同様に男女別生涯累積リスクを算出した結果であり、男性でA、B、C、D群それぞれ0.8%、3.6%、9.0%、および12.0%、女性でそれぞれ0.4%、1.7%、4.2%、および5.7%である。リスクが最大のD群では、男性で8人に1人、女性で18人に1人が胃がんで死亡する計算となる。

除菌による効果

ピロリ菌の除菌の効果については、無症候者の胃がん発症リスクをおおむね30%から40%低下させるとい

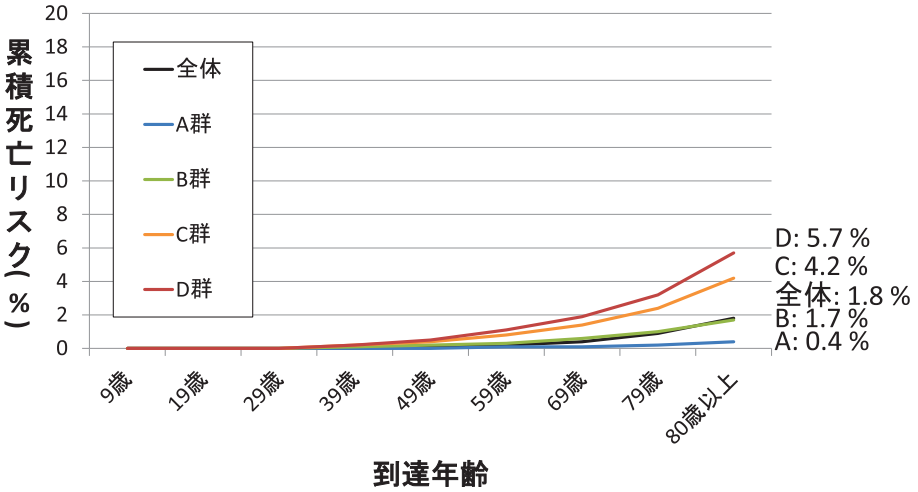
図３　胃がん累積死亡リスク(男性)



A:ピロリ菌(-)　萎縮性胃炎(-),　B:ピロリ菌(+)　萎縮性胃炎(-)
C:ピロリ菌(+)　萎縮性胃炎(+),　D:ピロリ菌(-)　萎縮性胃炎(+)

Taniyama Y, JJCO 2017; 47: 1097-1102

図４　胃がん累積死亡リスク(女性)



A:ピロリ菌(-)　萎縮性胃炎(-),　B:ピロリ菌(+)　萎縮性胃炎(-)
C:ピロリ菌(+)　萎縮性胃炎(+),　D:ピロリ菌(-)　萎縮性胃炎(+)

Taniyama Y, JJCO 2017; 47: 1097-1102

う結果が報告されている。仮に除菌がB群およびC群の胃がん発症リスクを30%低下させると仮定すると、男性でB群の10.8%が7.6%に、C群の26.7%が18.7%に、女性でB群の5.5%が3.9%に、C群の13.5%が9.5%になる計算となり、男女とも除菌後のリスクは一つ下の群（B群の場合A群、C群の場合B群）のリスクより高いままである。除菌後の胃がん発症リスクの減少効果は、萎縮性胃炎の有無などによって効果が異なることが指摘されている。リスク層別による胃がん予防を実装してゆく際の課題として、年齢や胃粘膜の状態などによる条件について、除菌による効果を最大化する方策を検討することが必要だと考えられる。

引用文献

1) Taniyama Y, Katanoda K, Charvat H, et al. Estimation of lifetime cumulative incidence and mortality risk of gastric cancer. Jpn J Clin Oncol 2017;47(11):1097-1102.

あとがき

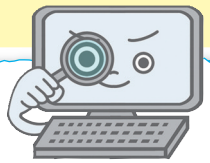
今60号は、NPO法人創立10周年記念第10回白金カンファランス（2018年12月19日）東京グランドホテル桜の間での特別講演（I）講師、国立がん研究センター・がん対策情報センターがん統計総合解析研究部部長　片野田耕太先生からのご報告です。

「日本人のがんの特徴は、喫煙などの生活習慣だけでなく、感染と関連するがんが多い点であり、その代表的なものがピロリ菌による胃がんである。感染対策により、一定のコントロールが可能であるため、リスク層別や個別化が適している。ピロリ菌感染の有無と萎縮性胃炎の有無の、2つを組み合わせた胃がんリスク層別化検査で、胃がんのA,B,C,D 4群別生涯累積罹患リスクを男／女別に算出すると、それぞれ、A群（2.4％／1.2%）、B群（10.8%／5.5%）、C群（26.7%／13.5%）、およびD群（35.5%／18.0%）と、男女ともにA群＜B群＜C群＜D群と増加し、ピロリ菌による胃がんリスクの大きさを物語っている。死亡率でみても、男／女別生涯累積リスクを算出した結果でも、それぞれA群（0.8%／0.4%）、B群（3.6%／1.7%）、C群（9.0%／4.2%）、およびD群（12.0%／5.7%）であり、罹患率と同様の算出結果であった。

ピロリ菌除菌による効果については、仮に除菌がB群およびC群の胃がん発症リスクを30%低下させるとすると、男女とも、除菌後のリスクは、一つ下の群のリスクより高いままである。また除菌後の胃がん発症リスクの減少効果は、萎縮性胃炎の有無などにより効果が異なることが指摘されており、リスク層別による胃がん予防を実装してゆく際の課題として、年齢や胃粘膜の状態などによる条件について、除菌による効果を最大化する方策を検討することが必要である。」と述べておられます。

今後、我々が、胃がんリスク層別化検診（ABC検診）を、継続して、国内外で推進・啓発してゆくに当たり、最重要課題である理論的根拠を示した、貴重な研究成果です。正に、NPO創立10周年記念講演に値する、核心的ご発表・報告であり、衷心より感謝申し上げます。　(M)

ホームページ全面更新



http://www.gastro-health-now.org

当法人による
ラテックスキットの推奨に伴い
令和元年６月に
ホームページは
全面更新
いたしました！
どうぞご覧ください

予告　乞ご期待！

令和元年秋には、最新情報満載の

『胃がんリスク層別化検診（ABC 検診）』

認定 NPO 法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構（三木一正）編、南山堂、2019

発刊されます

事務局より　お知らせ

■ **令和元年度　ご支援のお願い**

今年度も引き続き胃がん撲滅に向けて活動して参ります。みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

【寄附および賛助会費】令和元年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

賛助会費（個人）1口 3,000円　　賛助会費（法人）1口 30,000円

当機構は平成25年5月29日に認定NPO法人になり、ご寄附に対し税制上の優遇措置がございます。昨年度東京都より、当法人の賛助会費には任意性があり対価性がなく寄附金として差し支えないとの判断をいただき、本年度も賛助会費も寄附金同様の税制上の優遇措置を受けられます。賛助会費・寄附金を納入いただいた方には順次証明書類を発行いたします。

■ **お振込み先**

＊三菱ＵＦＪ銀行　目黒駅前支店　普通預金 No. 0008527
特定非営利活動法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構 理事長 三木 一正
＊郵便振替　00130-9-429200　日本胃がん予知・診断・治療研究機構

☆お振込の際、ご親族・職場等、複数の会員様でまとめる場合は、お手数ですが払込取扱票の通信欄に全員のお名前をご記入下さい。

■ 転居・所属変更・退会希望等は、お早めにFAX・メールにて事務局までお知らせ下さい。

認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構
電話　03-3448-1077　FAX　03-3448-1078　E-mail : info@gastro-health-now.org